

日本学術会議農学委員会 植物保護科学分科会（第26期・第5回）議事要旨

照会期間（意見交換）：令和7年2月21日（金）～2月27日（木）

議決期間（御回答）：令和7年2月28日（金）～3月2日（日）

会議形式：メール審議

出席者：渡辺 京子、中嶋 康博、阿部 芳久、西田 智子、林 謙一郎、
藤井 一至、松田 一彦、松本 宏、吉田 重信、大黒 俊哉、小野 正人

議題：意思の表出「提言：Soil Health（土壌の健康）の理解・維持向上・共有に
むけて」の発出について

- ・分科会の今期の活動方針に合致している。植物保護科学分科会としては、土壌の健全性の維持・向上が安定的な食料生産に極めて重要であることを強調したい。
- ・懸念事項がある。
 1. 有機物の定義が曖昧である。また、家畜の堆肥の危険性が書かれていない。
 2. 不耕起栽培は手間がかかる。作物の価格高騰の現状を悪化させる可能性がある。
- ・植物保護と土壌管理は、密接な関係がある。環境要因を整えることも食料増産につながる。懸念事項を共有し、議論を通じて分科会間の協力により社会に役立つ意思の発出ができる。

議決結果：賛成8、反対0、保留1

以上